

## 仕事の場が 広がっています！

今年に入ってから新たな仕事が受注でき、開始時からの目標であった**参加者全員分の交通費を稼ぐ**がついに6月、達成しました。お給料日も毎月となり、給料袋を手にする参加者の様子は毎回とても楽しそうです。

新たな出来事として、「仕事の場」での取り組みが、滋賀県内3か所と愛知県、長野県に広がってきています。



野洲市市長見学の様子

県内では、高島市・大津市・長浜市にある3介護事業所が開始にむけて準備をすすめており、県外では7月から愛知県の社会医療法人杏嶺会いまいせ心療センター、8月から長野県のNPO法人やじろべー宅老所もくれんで取り組みが始まりました。

平成23年の開始時はたった3人だった「仕事の場」の仲間が少しずつ増えたこと、この取り組みが滋賀県だけでなく県外まで広がっていることをとて

もうれしく思います。いまいせ心療センター、NPO法人やじろべーでの取り組みの様子は次ページで紹介しています。また、7月には守山市市長、滋賀県地域若者サポートステーションから、9月には野洲市市長など行政や他機関から見学に来られ、支援の輪の広がりを感じます。「仕事の場」4年目も更に様々な人に知ってもらふことや、同じ志を持ったつながりが広がることを目標としながら、参加者と共に頑張ります。



いまいせ心療センター・  
NPO法人やじろべー見学の様子



## 「しが仕事の場ネット」が設立されました。

9月にNPO元気な仲間(高島市)、社会福祉法人グロー(長浜市)、長等ほたるの家(大津市)が集まり、目的の確認や、「仕事の場」スタートに向けて現段階の状況等を報告し合いました。そして、NPO法人もの忘れカフェの仲間たちが事務局となり、「しが仕事の場ネット」として、情報交換などを行いながら一緒に取り組んでいこうと気持ちを一つにしています。

各新しく始まる「仕事の場」では、開始に向けてそれぞれに動き出しています。若年認知症の支援の輪が滋賀県全域に広がろうとしていることは、私たちの目標としていたことなので、私たちにもとても励みになります。私たちNPO法人もの忘れカフェの仲間たちの「仕事の場」も、今まで以上に頑張っていけますので、ご支援よろしくお願いします。

# 長野県 NPO 法人やじろべー 宅老所もくれん 愛知県 社会医療法人杏嶺会 いまいせ心療センター からの報告です！



7月より仕事の場を開始した宅老所もくれんと、  
いまいせ心療センターのスタッフの方々より取り  
組みについて報告が届きましたので紹介  
させていただきます。

## 宅老所もくれんにおける就労事業

NPO 法人やじろべー 宅老所もくれん

7月23日に利用者12名中8名で就労事業の練習を行いました。

参加者に就労についての説明、仕事の内容、約束事を話し仕事を開始しました。

「仕事」という言葉に「自分がやりたい、やらせてほしい」という希望が多く、仕事という意識が強いことに驚きました。

あらかじめできそうな仕事を分担して、それぞれの仕事をしましたが、

出来ることが想像していたことよりも多く見られました。難しいだろうと思っていたことがいかに

スタッフの勝手な決めつけだったか、ケアの中でも自分たちの決めつけが利用者の力を制限していることがわかりました。

また、スタッフの声掛けが利用者の動きを妨げること、手を出すことが作業を邪魔にすることになっていることにスタッフは気づかされました。自分達が出すことで、本人の行動をわからなくさせている、出来ること

をつぶしているかを知るきっかけとなりました。病状や症状が違うことがあります。しかし出来ることを新発見することは、いかにその人を見るか、そして知るかを学ぶきっかけとなりました。

仕事の後、参加者と話し合うと「是非次もやってみたい」「こんなに楽しくできるならまたやりたい」「頑張れば自分にも出来ることを証明したい」という感想が出ています。

7月30日に、就労事業開始となりました。参加される方々に、朝の送迎時参加の意思の確認と、

モチベーションを上げていきました。とても暑い時期なので、30分前

には部屋のエアコンをいれ、環境を整えることも大切にしました。今回

も始める前には「仕事」だという事を再確認してから参加しました。仕事

をされていた方々ばかりという事もあり、仕事に対する姿勢はしっかり

とお持ちでした。間違っている工程や商品状態に対して声をかけるこ

とにスタッフはためらいがありましたが、お互いに仕事だという気持ち

もあり、「間違っていることはしっかりとってほしい」という参加者からの言葉が私たちの一歩を踏み出せたきっかけでした。

休憩中に「真剣にやるとあっという間に時間がたってしまうね」「もっとしっかりとやらないと申し訳ないよな」という言葉が参加者から出てきました。仕事の真剣さや相手に対する敬意を感じる言葉がありました。受注元の方に仕事の状況を確認、仕事内容の注意点や不安に思っていた完成品の出来栄のチェックしていただきました。



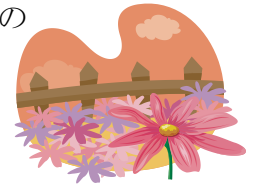
「商品として、人に出すものとして考えてください」という言葉に参加者さんたちも自分たちの仕事に対する気持ちの再確認をされていました。毎週仕事を行う事で、「水曜日は仕事の日」参加者に定着してきました。ご家族から「自分はもくれんに仕事に行っている」「私たちは職員なの」と家で話されると連絡がありました。自分ができることの喜びや誰かの為に役に立っていることを家族に話してくれる嬉しいお話を聞くことができました。

8月20日には、前回3箱完成しており、今回2箱を完成させることができました。

宛名書きは参加者のお一人が書いてくださいました。「字を書くことが久しぶりだ」とドキドキされながら、丁寧にきれいに宛名書きをしてくださいました。宛名を貼り、荷台に5箱の段ボールを重ね、もくれんの前にある郵便局に届けました。「お願いします」と緊張しながらの出荷でした。

もくれんに戻り、みんなで初めての納品に万歳三唱しています。

その時の笑顔を続けていくためにも、今後も参加者と共に考え経験を重ねて、社会参加・参加者自身の自信が持てるように就労支援を続けていきたいと思います。



## 仕事の間（もの忘れデイ）の開設

いまいせ心療センター もの忘れデイ

小倉紫 富田ひとみ 大野雅博 水野裕



6月初め、愛知県の一宮市にある社会医療法人杏嶺会いまいせ心療センター（以下、当院と称する）で「もの忘れデイ（仮名称）」という新しいプロジェクトが始動されました。利用対象は、当院もの忘れ外来に通院している認知症の方、または高次脳機能障害の患者様です。しかし、当初決まっていたのは対象者（説明会に来ていただく方）と8月6日（水）という開設日だけでした。

同月11日に急遽、「仕事の間」の先駆者である滋賀県の藤本クリニックさんへの見学に行かせていただくことになりました。見学前日までに院内の関係スタッフで話し合いを重ね質問事項をまとめて4名のスタッフが伺わせていただきました。当日は藤本先生、奥村さんをはじめ、ご利用者様、スタッフの方の協力を得ながら見学させていただきました。私たちが目にした藤本クリニックは当然、雲の上の存在であり、想像をはるかに超えていた仕事の間は、やはり未知の世界でした。温かく迎えていただいた藤本クリニックの皆様には本当に感謝いたします。名古屋までの帰りの電車の中では早速、当院での取り組み方、開設場所の検討などの話で盛り上がったことは言うまでもありません。そして準備に追われながらも、6月20日には第1回目の説明会を開催しました。参加者



はご本人とご家族合計で約40名程であり、主治医以外のスタッフは参加者の方々と初めての顔合わせでした。説明会では主に、仕事の間に参加していただくことでの社会的な役割をご本人、ご家族が実感できるようにしていきたいとの旨をお伝えしました。同じ内容で7月に第2回目の説明会が開催され、8月6日（水）9時に、（今思えば）なんとか開設の日を迎えることができました。



開設当日は、ご利用者様以上に緊張しているスタッフが、もの忘れデいの受付にてご利用者様をお迎えしました。スタッフ一同、朝からガチガチで余裕は全くありませんでしたが、始まったと思ったらあっという間に一日が終了し、帰りの時間になりました。その日の最後にご利用者の方々から



「楽しかったわぁ！！」「次はいつ来ればいいのか？」等の言葉と笑顔でそれまでの不安な気持ちや疲れが吹き飛び、一気に力が抜けた気がしました。今回ご縁があって、もの忘れデいに取り組むこととなり、認知症の方の可能性に改めて気付くことができたことを本当にうれしく思います。

そして、開設から2か月が経ち、開設当初9名だったご利用者様も今では平均16名/日になりました。初めに準備した椅子や机は数が足りなくなり、急遽追加している次第です。開設当初から行ってきた仕事（内職）は、やり方が二転も三転もしている状態で、現在も毎日苦慮しております。そんな簡単なこととは決して思ってもいませんでしたが、想像以上に難しく、藤本クリニックさんの本を読み返しては真似できることはさせていただきながらも、ご利用者様や当院に合った独自のものができるようにと、日々もがき、苦しんでおります。しかし、一つ一つが勉強であり成功に近づくための試練だと思っておりますので、乗り越えるたびに最初に感じた安堵感を再び感じることができるよう、またいつか、「仕事の間」の内容をご報告させていただけるように、今はとりあえず前向きに頑張っていきたいと思っています。今後とも、いまいせ心療センターをよろしくお願いいたします。



## 大きな目標の一つ“交通費を稼ぐ”を達成しました！

この「仕事の間」が始まる時の日にち設定で毎日でも！との意見も出たのですが、毎回の交通費は自己負担となることを考慮し参加者との相談で週1回の設定と決まりました。その後も何度か話し合いの場がありましたが、やはり“交通費”の部分がネックとなり週1回の回数の変更はなく現在まで続いています。

「エーザイ株式会社」さんから受注した新しい仕事が始まり、6か月が過ぎました。今では役割分担も定着し、参加者もすっかり慣れて下さっています。



当初から続けている内職の仕事を、目標通り仕上げた後、「さあ次はあっちかー」と切り替えて袋詰めの作業に向かわれる参加者の後からスタッフが走る様子がよく見られるようになりました。

初めの頃に比べ、2倍近くの数が出上がるようになり、作業だけではなく段ボール箱に詰める発送の準備や、作業場の片づけまでして終了しています。

そして5月28日、仕事の間を始めた時からの目標である、交通費分をまかなえる金額のお給料を渡すことができました。

「いつぶりやろ、こんな嬉しいの」

「何年ぶりかなー、お給料なんて忘れてた」

「とりあえず、飛ばされないように」と

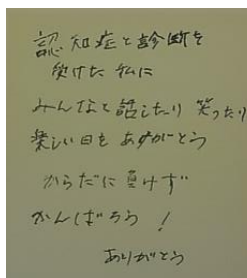
ポケットを押さえて帰られる方もおられました。これ以降、毎月お渡しできるようになり、月初めのお給料日はうれしい声がたくさん聞こえています。



## うれしいお知らせがあります！！

メッセージカードの第2弾の注文を受けることができました。

早速、デイサービスの参加者の皆さんにも報告すると「認知症と診断されたあなたへ」のメッセージを考えて下さいました。



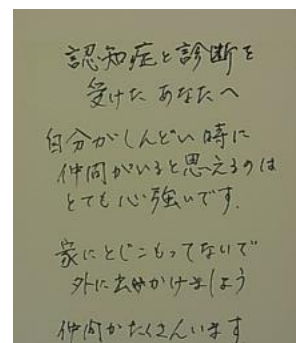
◎忘れることは、新しいポケットができること。新しいポケットにいっぱい詰め込もう。

◎自分には力がある！自信をもって。

◎大いなる人生を大切に生き抜きましょう。ころばぬように。

◎自分がしんどい時に仲間がいると思えるのはとても心強いです。

どんなメッセージが選ばれるかは、まだ決定していませんが、どの言葉も力強く背中を押してくれることを信じています。



「仕事の場」の仲間が増えています！



今年 7 月に滋賀県地域若者サポートステーション(以下サポステ)の方が仕事の場を見学に来られました。

### ～滋賀県地域若者サポートステーション～

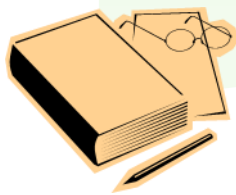
サポステとは、若者の就労への自立支援を目的に厚生労働省が、若者雇用対策の一環として、一定期間無業の状態にある 15 歳から 39 歳若者の職業的自立を支援することを目的に、全国に設置した、職業意識の啓発や社会との調和などの支援を行っています。仕事や就職に関する相談を、専任の相談支援員や臨床心理士が個別に応じ、また地域ネットワークを使って若者の自立を包括的に支援しておられます。(HP<http://www.shiga-support.jp/>参照)

作業の休憩中にサポステ職員の方よりサポステについての紹介があり、今後見学や、一緒に参加することがあるかも知れないとの話には、皆さん「よろこんで！」「仲間が増えることはいいことです。」と歓迎の声を上げておられました。ある方は「ここはなんかのモデルになってるんか？」と言。続けて「でも模範生は無理やろ。」との発言にみんなで大笑いするやり取りなど、サポステの職員の方からは温かい雰囲気が伝わってくると、見学に来た感想を伝えて下さっています。

9 月に初めてサポステからの紹介で 1 名、仕事の場に参加されました。作業の手順を一通り若年認知症の方から説明を受け参加されていました。終了後の感想には“単純な作業ではあるが、だからこそ気が抜けない”などと言いながら、仕事として参加者の方と一緒に取り組んでおられました。次回の参加の意思も伝えて下さったとの報告を後日受け、私たちもとてもうれしく思っています。また以前に参加者の方が話されていた「誰でも来たい人が来たらええやんか。」といった気持ちや雰囲気がきっと伝わっているのだろうなとも思います。この仕事の場に参加したことがきっかけで新たな一歩を踏み出すきっかけになったり、社会とのつながりを感じられる場所になればいいなと思います。

# 認知症の人を支える様々な家族支援について

平成26年7月19日



## NP0 法人もの忘れカフェの仲間たち 第2回研修会が開催されました。

7月19日、ピアザ淡海にて第2回研修会を開催しました。

今回の研修会では、「正しい病気の理解」「薬の効果の感じ方」「仲間と出会える場所」の3つについて藤本クリニック・もの忘れカフェの仲間たちの取り組みを通しての家族支援を学びました。

講義の内容を一部ではありますが紹介させていただきます。

正しい病気の理解のために本人に起きていること、生活のしづらさがたくさんあること、困った言動にも理由があることを繰り返し伝えながら、さらに具体的な工夫について話を進めていきます。例えば「食事の場面で気になることは？」のように事柄を限定して話すことで今、何に困っているのかを家族自身が整理されるようになります。(スライドより)

難しくケアを語るのではなく、「知っておいたら少し楽になれるかも知れない」と思える生活の工夫などを伝えます。



これらを目指した取り組みの、心理教育や本人家族交流会、抗認知症薬処方時の問診票からの気づき、仕事の場に参加されている家族ボランティアさんのお話から、必要な心構えを勉強しています。

家族支援では「支えること、支えられることの垣根をなくす」が大きなテーマとなっています。本人・家族支援の原則はする側、される側の区別をなくして「してあげよう」を受け取るだけではつらい。「認知症の人」ではなく、一人の人。「介護する家族」ではなく、一人の人。本人も家族もいつも助けてほしいわけじゃない、できることを求めてそのためには病気を知り薬物療法、非薬物療法へ参加しながら仲間とともにあること。(スライドより)

後半は、様々な職種、立場の人が一緒にグループとなり模擬事例を使って、意見を交換しました。活発な意見交換の中から本人、家族両方の意見を聞くこと、かかりつけ医が初動の鍵になることが多く、理解してもらうために私たちから発信する必要性に気付くことができました。また多くの参加者の声を聞くことで、日ごろのケアのヒント、皆が頑張っていると知り、自分も！！と元気をもらうことができました。



研修会へのご参加

ありがとうございました。

今後も皆さんと共に様々なことを  
学んでいきたいと思っていますので  
ご参加お待ちしております。



## 妻とともに歩む(2)

藤本 寿雄

連載第一回目では、発病時のこと、社会環境についてお書きくださっていました。社会環境の部分は変化してきている部分も多いとは思いますが、まだまだ必要な支援が十分でないと私たちも日々感じています。必要な支援が届けられるよう私たちも日々の取り組みを頑張っていきたいと思います。

今回は、受診・診断の頃についてお書きくださっています。



### ー受診・診断の頃ー

自分でも「もの忘れ」がひどいことを自覚していた妻が、守山の「もの忘れ外来」の新聞記事を見て受診を申込んだのは 2001 年 12 月のことでした。「もの忘れ外来」だったから自分で申し込めましたが、「精神科クリニック」であれば私も受診をためらっていたと思います。私は「単なるもの忘れ」と軽い気持ちで同行したので、先生からアルツハイマー病だと聞かされた時の衝撃は今でも忘れられません。この世の不幸を一身に背負いこんだような暗澹たる気持ちになりました。

私たちの世代(私は昭和 17 年生れ)は、とにかく仕事第一で、家事や育児は妻の仕事と家庭を顧みない日々を送っていました。診断を機に、これからは「妻とともに歩んでいこう」と決心しました。

### ー目線を合わせるということ①ー

しかし、「ともに歩む」ことは容易なことではありませんでした。症状が進むとともにできないことがどんどん増えてきます。できなくなったことは当然私がするのですが、家事は妻の仕事という想いが抜けないので、どうしても「してやっている」という気持ちになります。「食事の支度をしてやっている」のに、なぜ食べてくれない、と思わず腹を立ててしまいます。「掃除をしてやっている」のに、「私の家やのに勝手なことをして・・・」と言われると、ほとんどブチ切れの状態になります。「してやっている」と思うから腹が立つのであって、妻ができなくなったことを私がしているだけ、家庭内の役割分担が変わったのだと考えれば、病気の妻が何と言っても大して腹も立たないと気付いたのは、相当の年月が経ってからのことでした。「目線を合わせることが大切」とよく言われますが、「してやっている」というのは「上から目線」だったのですね。「してやっている」と思っていた時は、ずいぶん肩に力が入っていたように思います。気持ちが切り替わると、肩の力が抜けて、楽に向かい合えるようになったのです。



朝の散歩の時間にすれ違う近所の方に「歩くスピードが速くなりましたね」と声をかけてもらったというエピソードをお話しされました。「これが普通に地域で過ごすってことですよ」「一声かけてもらえるだけでうれしい」との藤本さんの言葉がとても印象に残っています。一声が普通に掛け合える地域がたくさん増えたらよいと思いますね。

11 月 13 日のビバシティ彦根での若年認知症研修会にて藤本さんにお話をさせていただくことになっています。ぜひご参加ください。



## ご案内

NPO 法人「もの忘れカフェの仲間たち」第3回研修会を行います。

申し込み 日 時：平成26年11月15日(土) 14:00～17:00(受付13:30～)  
受付中 会 場：ピアザ淡海 207会議室  
です！ 講 師：藤本クリニック 藤本直規・奥村典子  
参加費：一般2,000円 NPO会員1,000円  
テーマ「認知症の医療とケアの理解」 日本認知症ケア学会単位認定2単位

### 「若年認知症研修会」

日 時：平成26年11月13日(木)  
13:30～16:30(受付13:00～)  
会 場：ビバシティ彦根 研修室  
講 師：藤本クリニック 藤本直規・奥村典子  
家族の立場から 藤本寿雄さん  
参加費：無料  
申し込み受付中です！

詳しくは藤本クリニックまでお問い合わせください。

全国からぜひご参加を！

### 「第6回全国若年認知症フォーラム IN 滋賀」

日 時：平成27年1月25日(土)  
12:00～17:00(受付11:00～)  
場 所：ピアザ淡海 ピアザホール  
テーマ：「支えること、支えられることの  
垣根をなくす」  
講 演：「川崎市における認知症連携と  
若年認知症の現状」  
日本医科大学 特任教授 北村 伸先生等  
「仕事の間」の報告もいたします！



みなさんの疑問・質問にお答えするコーナーです！

「これどういう意味？」「こんなこと教えて！」  
などありましたら、どしどしお寄せ下さい。



Q. NPOの名称の  
“仲間たち”は誰の  
ことを指しているの  
ですか？

A. 子供から高齢者、病気や障がいを持った人  
など社会で生活をする様々な方たちのことを  
指しています。病気や障がいを抱えながらも、  
色々な方々と交り合い支えあっていけたらと  
いう私たちの思いがこもっています。

### 編集後記 ～MONOWASURE～

秋も深まり、今年も残すところあと2か月程となりました。上半期の大きな出来事は、新しい仕事の受注のおかげで1か月分の給料が増えたこと、そして新たに仕事の間が広がるなど私たちスタッフもさらに一丸となり頑張ろうと思える出来事が多くありました。特に仕事の間が広がるは「やってみよう」、「何とかしてみよう」と同じ志を持った者が一つになれたことが大きいと思います。今後もさらなる発展に向けて、日々の取り組みを頑張っていきたいと思います。会員の皆様にはいつもNPO法人もの忘れカフェの仲間たちへあたたかいご支援をいただきありがとうございます。

発行者：NPOもの忘れカフェの仲間たち 滋賀県守山市梅田町2-1-303 TEL 077-582-6032

発行日：平成26年10月20日